

マタタビ属植物の種間交雑における新系統 KC-183 及び AM-203 の特性

片桐孝樹・末澤克彦*

1. キウイフルーツの新品種育成を目的として数種のマタタビ属(genus *Actinidia*, 以下 A.)植物間での種間交雑を試み,特に果実品質等の優れた KC-183 及び AM-203(いずれも系統名)を選抜した。これら 2 系統について樹体特性や果実特性を検討し,以下の結果を得た。

2. KC-183 は,1986 年にキウイフルーツ(*A. deliciosa*)品種‘香緑’に *A. chinensis* の雄品種(府中果樹研究所における保存系統名:FCM-1)を交配して得た交雑実生である。果実の外観は,長楕円形で,果頂部が尖る特徴的なものである。果実表面の毛じは,‘香緑’に比べて軟毛で,密度も粗である。成熟期は,10 月下旬で‘香緑’より少し早い。果肉は,黄緑色を呈している。糖度計示度,クエン酸は,ともに‘香緑’同程度であるが,肉質は‘香緑’に比べて緻密で,食味良好である。樹勢は中で,‘香緑’に比べて弱い。開花時期は 5 月中旬頃であり,花蕾の着生は‘香緑’よりやや少ない。

3. AM-203 は,サルナシ(*A. arguta*)品種‘一才’に *A. deliciosa* の雄品種(‘マツア’)を交配して得た交雑実生である。果実の大きさは,40~50g で‘香緑’の約半分であるが,サルナシやマタタビの果実と比べて大きい。果実表面は無毛で,褐色を呈している。果肉は,‘香緑’と同様に濃緑色を呈しており,糖度計示度は高く,食味良好である。成熟期は,10 月中下旬と早い。追熟は必要であるが,追熟の難易は,易であり,樹上で果実が軟化を始めるものもある。樹勢は,‘香緑’より弱い,サルナシやマタタビ類の中ではやや強である。開花時期は,5 月上旬とかなり早く,専用の雄品種もしくは冷凍貯蔵花粉の利用が必要である。また,花蕾の着生は‘香緑’に比べてかなり多い。

キーワード:種間交雑,マタタビ属,キウイフルーツ,新系統,品種特性